



group show - Kiko Kato, Sennosuke Tanaka, Sho Shimizu, Yuki Seki

May 1 - June 6, 2026

加藤記子, 清水笙, 関優希, 田中茜乃介

2026年5月1日～6月6日

オープニング: 2026年5月1日 17:00 - 20:00

8 1/2

東京都品川区二葉 1-8-6

金・日・祝 13:00-19:00

この度、8 1/2 で加藤記子、田中茜乃介、清水笙、関優希によるグループ展を開催します。

本展を構想するにあたり手がかりとなったのは、言語におけるフィラーの存在とその感覚でした。「あの」「えっと」といった意味を持たない音節は、発話の途中に現れながら、意味そのものではなく意味が生まれる時間を示します。それらは語として機能するわけではありませんが、語が成立するための位置として確かに存在しています。

加藤記子の《The other heart》は、裏面に残されたカリグラフィのドローイングの痕跡が透け、コンパスを使用して描かれながらもわずかに歪んだハート形の図像が浮かび上がります。また《line》は生活の中で自動筆的に描かれたドローイングシリーズの一部で、本作はそのシリーズを制作した際のドローイングペンの包装のレディメイドです。これは像の完成形ではなく、像が生まれる過程に付随する時間の痕跡を想起させます。

田中茜乃介の《二つ折りの部屋》では、部屋の隅を撮影した写真がその折れ目に沿って二つに分割され、左右で異なる露光を与えています。写真は平面でありながら再び角を生み出し、自立することで新たな空間の単位として現れます。ここでは写真は単に像を提示する装置としてではなく、空間が成立する条件と私たちの認識そのものを揺さぶろうとします。

清水笙の《Untitled》は作者自身の経験ではなく親族の生活の内部に属していた時間の断片です。親族のファウンドフォトという存在は回想でも記録でもない位置に漂います。また、過去作で繰り返し見せてきた大きな余白の内部に像を小さく置く操作や、今作での作品に奥行きを持たせる操作は像と現在とのあいだに残された距離を可視化します。そこにおいて写真は過去を再現するものではなく、異なる時間が接触する位置を示す媒介として提示されます。

関優希は、生活空間の内部に存在する事物や記録を起点として制作を行ってきました。彼女が今まで中心的に行ってきた写真や映像による制作では自宅の内部に限定されたモチーフが繰り返し扱われてきましたが、本展で提示される《Drive My Car》、《Untitled》では人生ゲームの駒や紙幣といった既製品が用いられています。これらは生活の痕跡として提示されるのではなく、家や人物、移動や貨幣といった生活の構成要素が極度に単純化された形で並列されます。

彼ら / 彼女らの制作は像や空間、記憶や関係を直接提示するのではなく、それらが成立する以前の位置や、その間に生じるわずかなずれや距離に手触りを与えます。そこでは意味は完成された形として提示されるのではなく、成立の過程として静かに現れます。四人の作品は、意味として完結する手前にある何かに触れようとしているのではないのでしょうか。



group show - Kiko Kato, Sennosuke Tanaka, Sho Shimizu, Yuki Seki

May 1 - June 6, 2026

加藤記子

2002年、愛知県生まれ。武蔵野美術大学造形構想学部映像学科卒業。関優希と共にブックレーベル『二つのこと』を立ち上げ、一冊のみ製本する、複製されない閉じられた本を制作している。これまでの展覧会に、“遠く山、とかす土”（武蔵野美術大学，2024年），“farewell adios amigo potato”（小金井アートスポット，東京，2025年），“Even Number”（2025年度武蔵野美術大学卒業制作展，東京，2026年）などがある。

清水笙

2000年、神奈川県生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程油画専攻在籍中。これまでの展覧会に、“金平糖”（KOGANEI ART SPOT シャトー 2F，2023年），“千年か二千年”（clear gallery tokyo/t2，東京，2024年），“Two Steps to The Lamp-lit Celler”（Yuga Gallery，東京，2025年），“KUMA EXHIBITION 2026”（SPIRAL GARDEN & SPIRAL HALL，東京，2026年）などがある。

関優希

2002年、東京都生まれ。武蔵野美術大学造形構想学部映像学科卒業。加藤記子と共にブックレーベル『二つのこと』を立ち上げ、一冊のみ製本する、複製されない閉じられた本を制作している。これまでの展覧会に、“dresser（=, ≠, ≠, book cover）”（flotsam books，東京，2024年），“遠く山、とかす土”（武蔵野美術大学，2024年），“farewell adios amigo potato”（小金井アートスポット，東京，2025年），“Even Number”（2025年度武蔵野美術大学卒業制作展，東京，2026年）などがある。flotsam zines tour 2023 グランプリ、TOKYO FRONTLINE PHOTO AWARD 2025 グランプリ受賞。

田中茜乃介

2001年、京都府生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科在籍中。これまでの展覧会に、“The nothing of photography/The number 2 for photography”（art spot korin，京都，2024年）“A room with a view(眺めの良い部屋)”（京都市立芸術大学作品展，京都，2025年），“二拠点の声 / 二つ折りの部屋”（copy center gallery，東京，2025年），“syn.”（ビューイングルームこおと，奈良，2025年），“ドアは分からないくらいに開いている”（京都市立芸術大学作品展，京都，2026年）などがある。京都市立芸術大学市長賞（2025年）、TOKYO FRONTLINE PHOTO AWARD 2025 小山泰介個人賞受賞。



group show - Kiko Kato, Sennosuke Tanaka, Sho Shimizu, Yuki Seki

May 1 - June 6, 2026

ギャラリーオープンにあたって

この度、ギャラリー「8 1/2」をオープンいたします。

私はこれまで、川口遼大 個人名義として、またキュラトリアル・コレクティブ cacco の活動として 2023 年より都内のオルタナティブスペースやギャラリーを中心に展覧会を企画してきました。そのノマド的な活動を続けるなかで、なぜ場所を持つに至ったのか、そしてなぜギャラリーという形式を選択したのかについて、お話ししたいと思います。

まず、決まった場所を構えたいと考え始めた理由として大きかったのは、先行世代の存在から受けた影響と、想像力に対する瞬発力および効率性の問題です。

先行世代の影響とは、この場所そのものにもつながる話ですが、私より約 10 歳上の世代によるギャラリー／スペースの実践のことです。2010 年代後半以降、東京には 18, murata (旧 mumei)、4649 (Workstation. / 休止中)、XYZ collective、LAVENDER OPENER CHAIR、imlabor 2 x 2 x 2 (閉館) といったアーティストランのギャラリー／プロジェクトスペースが存在し、若い世代の発表の場を作家自身が主体的に立ち上げてきました。そしてこうした動きは、これまで形を変えながら繰り返し継承されてきたものでもあります。私たちはそれらの展覧会に足を運び、あるいはインターネット上に残された記録を辿りながら、過去から現在に至る実践の連なりを感じ取りました。同世代の作家が同世代の作家を取り扱い、協働し、その世代の表現を確かに歴史の中に位置づけようとする営みが続いていたのだと思います。それは、私たちの世代にとって必ずしも自明ではなかった場所と温度を伴う実践でした。だからこそ、同世代が実践と実験を重ね、相互に耕し続けられる場をつくり、新しい現象に立ち会える状況を自ら生み出したいと考えるようになりました。

もう一つの理由は、想像力に対する瞬発力と効率性という、より現実的な問題です。ノマド的な活動における大きな困難は、展覧会の企画から実現までの速度と作業リソースにあります。取り扱いたい作家や主題がいくらあっても、それらを同期させる空間と時間が確保できなければ、多くは構想に留まります。こうした状況から、場を持つ必要性を強く感じるようになりました。

次に、なぜギャラリーという形態を選択したのかについてです。これは言葉にしまえば単純な理由によります。私 (ギャラリスト) も作家たちも、生身の人間であるということです。互いの活動が職業として成立するかたちでなければ、制作は本当の意味で持続可能にはならないと考えました。ある種の現実的な認識の上に立つてこそ、長期的な作家との関係性や、美術史への刻印の可能性が生まれるのではないかと考えています。

こけら落としとなる本展では、2000 年から 2002 年生まれの作家によるグループ展を開催します。ギャラリー自身と同世代にあたる作家たちのなかから、いま、この場でともに展覧会をつくりたいと考えた 4 名を紹介します。